福島県 PTA 連合会

PTA ふくしま 第119号

県Ｐ連活動スローガン　子と親が 共に育つ PTA 活動を

編集：調査広報委員会　　印刷：株式会社第一印刷

特集 「第70回 福島県PTA研究大会白河大会」報告

県PTA連合会会長あいさつ

会長
平塚 康晴

東北の玄関口であり、歴史や文化にあふれる白河市において第70回福島県PTA研究大会白河大会を『宝・連・創　～地域の宝である子どもたちのために、私たちが連携を図りながら笑顔あふれる未来を共に創りあげていこう～』を大会主題とし開催いたしました。

新型コロナウイルス感染症の影響により人数や時間も規模縮小でありましたが、現地にお集まりいただいての４年ぶりの開催となり当日は午後からの半日開催でしたが、メイン会場及び分科会会場も敷地内にありコンパクトに開催できました。この大会を体感していただいた皆様にはどのように感じましたでしょうか？

私には講演会や分科会で準備された席はほぼ満席で、皆さんの真剣な眼差しと意欲、そして講演者のお話に引き込まれていくように楽しく体感していただけたのではないかと思いました。この体感が郡市連Pや単位PTAでの研修会等の一助になれば幸いです。

私たちが共に学び共に活動していくことは子どもたちへの健全育成には重要だと思います。これからも共に取り組んでまいりましょう。

白河大会の開催にあたり、白河市教育委員会をはじめ関係諸団体の皆様からご支援、ご協力を賜りましたこと、鈴木崇史実行委員長をはじめとする白河大会実行委員会の皆様のご尽力に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

大会実行委員会長あいさつ

実行委員長
鈴木 崇史

まずはこの度の白河大会にご参加いただきました県内PTA会員の皆様には心より感謝申し上げます。PTAの存在意義、コロナ禍における活動内容や研修方法、地域との連携等、PTAを取り巻く課題は多岐にわたりますが、今大会を通して学んだ内容が少しでも今後の活動の一助となれば幸いです。

今回はコロナ感染防止や実行委員会メンバーの負担量といった側面も考慮し、半日開催、例年の1/2の参加人数、3分科会といたしました。より多くの会員および地域への波及効果という視点に立てば、例年と同規模かつ現地開催が望ましいことは疑う余地もありません。しかし前述のような情勢を踏まえれば、昨年実施したオンライン開催、あるいはハイブリッド開催も含め、一つの選択肢になり得るのではないでしょうか。それぞれが持つ長短や今後の大会の在り方等について議論を深め、次年度以降の参考にしていただければと思います。

3年ぶりの現地開催、さらにはコロナ禍ということもあり、開催に至るまでの段取り、会議日程調整や感染対策等、大会準備・設営においては様々な制限や苦労がありましたが、無事開催することができましたのは、ひとえに県PTA役員、大会実行委員会の皆様をはじめ、ご協力くださった多くの方々のおかげです。本当にありがとうございました。

目　次

「福島県PTA連合会第70回福島県PTA研究大会白河大会」報告　「大会記念講演」リポート……P1,2
家庭教育セミナーレポート …… P2
東北ブロック研究大会レポート …… P3
表彰受賞 …… P4
安全互助会 …… P4

第70回 福島県PTA研究大会「記念講演会」

◇講師　ダルライザープランニング代表　ダルライザー（和知　健明　氏）
◇演題　「努力と工夫で何度でも立ち上がれ」

第70回の節目を迎えた白河大会の記念講演は、白河市生まれで2008（平成20）年から『ダルライザー』の活動を開始した和知健明氏が行いました。

ご自身の信念・モットーである「とりあえずやってみる」「経験は血肉となる」を軸に据え、これまでの映画制作における様々なチャレンジや人材育成、地域貢献におけるご経験や成長したことなどを伝えていただきました。今後の夢・目標である『市民が市民を楽しませるエンターテイメントの地産地消を目指す』への想いを熱く語る和知健明氏に、ご講演終了、PTA会員から大きな拍手が沸き起こりました。

分科会レポート

第１分科会（特別支援教育）は、村上光輝氏（東京2020パラリンピックボッチャ競技日本代表監督）から、テーマ『支援を必要としている子どもたちへの理解と共生社会』で講演をいただきました。第２分科会（健全育成）は、塩田真吾氏（静岡大学准教授）から、テーマ『スマホ時代に生きる情報モラルの支援について』でオンライン講演をいただきました。第３分科会（家庭教育）は、大屋弘子氏（親業訓練シニアインストラクター）から、テーマ『子どもの心と向き合うための親としてのあり方について』で講演をいただきました。途中、PTA役員実演による親と子とのロールプレイングも行われました。共生社会「一緒があたりまえの社会」や親子で活かしたいインターネットとの上手な付き合い方、子どもが心を開く大人の対応について学ぶことができ大変有意義な時間となりました。

令和4年度
第29回 福島県PTA連合会「家庭教育セミナー」レポート

副会長
野木 和洋

令和４年９月16日「思春期の子どもの性教育と果たすべき親の役割」をテーマにいわき市のアドバイザーでもある東京医療保健大学、渡會睦子先生を講師にお迎えして家庭教育セミナーを開催しました。性教育について子供とどう向き合ったらいいのか困っている保護者は実際多いのではないでしょうか。私もその1人として参加し、大人はあの時が思春期だったとわかるが、今思春期かどうかわからない子供達もたくさんいること、自分を大切にすること、他人を大事に思うこと、思春期は気持ちの振れが両極端になりやすい（好き→嫌だ）等多くの学びがありました。講演会後のグループディスカッションも白熱！参加した保護者の皆様から親子で聞きたい、男性会員にも聞かせたいと大反響でした。今後も有意義なセミナーをお届けできるようアンテナを張っていきます！

第70回日本PTA全国研究大会 第54回日本PTA東北ブロック 研究大会「山形大会」レポート

令和4年8月26日（金）・27日（土）

山形大会は、「人とひとのつながりを体感しよう!～あがらっしゃい精神の山形から～」のスローガンのもと開催されました。分科会（10会場）や記念講演などを通して、山形の地に集まった多くのPTA会員が、子どもたちの健全育成、家庭・学校・地域とのつながりをより強いものにすることを学び合いました。本県からは335名の会員が参加しました。また、特別第1分科会には元県P会長の菅田憲孝氏がパネラーとして参加しました。

全体記念講演・記念演奏会

演題「一本のタクト」は、人のこころを豊に幸せにするアイテム ライブでしか味わえないお話と演奏をあなたに…

副会長
安藤 正希

2022年8月26日～27日、日本PTA全国研究大会山形大会へ参加しました。私自身、日本PTA全国大会への参加は初めてで、大会テーマ『人とひとのつながりを体感しよう』ということで、興味のある研修内容もあり楽しみにしておりました。サテライト会場を含め全国から約6500名が集まり、PTA組織の大きさとつながりを肌で感じることができ、改めてPTA活動の重要さを確認してきました。

26日は山形県内各所での分科会、27日の全体会では、山形交響楽団常任指揮者である飯森範親氏の記念講演と、同楽団の記念演奏会がありました。

記念講演では、飯森氏の仕事を通して具現化してきた「人とひとのつながり」の大切さを中心とする内容で、指揮者という立場からのお話しがとても興味深いものでした。その中で、飯森氏はご両親から言われた「感謝の気持ちをいつでも忘れず持ち、そして必ず口に出して伝えること」をずっと実行している、という話がありました。いろいろな人とのコミュニケーションによってつながりができ、信頼関係を築き、感謝の気持ちを伝えて、現在の自分につながっている、との話があり、感謝を口に出して伝えることが大切だと改めて気づくことができました。自分自身が実践をして、子どもたちに伝えていきたいと思います。

また記念演奏会は、プロの山形交響楽団の演奏を初めて耳にして、鳥肌が立ちました。普段、演奏会に行くことのない私にとって、プロの演奏を聞くことは大変貴重な経験でした。

今回の研究大会での学びを、時代の流れに合わせた、子どもたちのためのPTA活動に生かしていきたいと思います。

第２分科会　会場：酒田市民会館希望ホール

副会長
張崎 貴裕

第２分科会では「地域とつながる学校教育」を研究課題とし、東京学芸大学特任教授の永田繁雄氏から「地域・家庭と学校の協働の力で子供の心の豊かさと活力を育む」という演題で基調講演をいただきました。

氏は「子供の自尊感情や人間関係力の不安定さなどの心の危機が指摘される今、子供が深く根を張る土壌となる地域や学校の在り方が問われている。地域と学校がそれぞれの特色ある役割意識をもち協働の力を発揮してこそ、子供はそのフィールドの中で思いきり自己の生き方を実現することができる。我々大人は「伴奏者」として、常に生き方の選択肢に直面している子どもを応援し続けていくことが重要となる」と指摘され、「子供の人間形成全体を家庭・地域・学校は大切に考えるべき」「幸福感へ意識を向けさせる」「体験が多いほど豊かな心が育まれるので、様々な体験を手間と時間を掛けて取り組ませる」等の具体的な事例を取り上げられ、最後は「子供の自ら伸びる力を信じて、我々大人は接していきましょう」と締めくくられました。その後は実践発表とパネルディスカッションがなされ、第２分科会は終了いたしました。

当初は600人の参加予定でしたが、コロナ禍によりスタッフを合わせても400名程の規模となりました。しかし、人数よりも開催が出来たことに大きな意義を感じた大会でした。

特別第1分科会　会場：天童市市民文化会館

副会長
相田 知津子

特別第１分科会は「令和の日本型学校教育を支援するPTA活動～持続可能な社会の担い手の育成をめざして～」を研究課題とし、木村貴志氏による基調講演、実践発表、続いてパネルディスカッションが行われ、福島県PTA連合会からは菅田憲孝顧問がパネリストとして参加しました。

主な内容は、①これからの時代は、子どもたちが自分の考えを持って発信できるコミュニケーション力が重要となり、自分のアイデンティティをしっかり持った人間を育てていかねばならない。

②考えながら何かをしていくことの大切さを感じさせ、気づかせていくような実践活動が大切となるが、学校だけでは限界があり、学校・地域・家庭との連携、協働が不可欠である。

③大人たちは伝えるべきことを持ち、信念をもって子どもたちに伝えることができているか。大人の姿を子どもたちは見ている。

とのことでありました。

「子どものために！」とよく言いますが、まずは率先して大人が変わっていくことが必要で、気づきや学びを得ながら、学校・地域・家庭の懸け橋となっていくことがPTAの役割であり、結果として子どもたちの発達・成長につなげていく大切さを感じました。

学校を支援し、人づくりと地域づくりの好循環の中で未来の担い手を育てていきたいものです。

特別第2分科会　会場：やまぎん県民ホール

副会長
鈴木 崇史

基調講演では、ICTが急速に普及し、社会が劇的に変化していく時代を生きる子供たちにとって、確かな学力や主体性、生きる力を育成するためにはICTの活用が必要不可欠であること、また、その活用を促す前提としてメディア・リテラシー教育が重要であることを学んだ。

実践発表では、ノーメディアから発展させたウィズメディアへの取り組み、その後のパネルディスカッションでは、学校や地域、教員の年代によるICT活用差への課題、保護者目線での心配事などについて議論された。

ICT教育およびメディア・リテラシー育成に対して、私は恥ずかしながら「コロナ禍でやむにやまれず導入した」くらいに捉えていたが、この分科会に参加したことにより、個々に応じた教育や他者との協働的な学び、教員の負担軽減など様々な効果が期待できるものであることが理解できた。我々大人もしっかり向き合い、まずは学んでみること、その姿を子どもたちに見せることが、未来を生きる子どもたちのためになるのではないかと思う。

受賞おめでとうございます（敬称略・順不同）

日P「年次表彰式」参加者のみなさん（2022.11.18）

1.福島県PTA連合会 会長表彰
◇感謝状受賞 39名
　宗　像　真　人（前 福島県PTA連合会副会長）他38名
◇団体16団体
　本宮市立白沢中学校PTA 他15団体
◇個人76名
　八　木　雄一郎（前 岩瀬地区PTA連合会副会長）他75名

2.日本PTA全国協議会 会長表彰
◇団体
　本宮市立まゆみ小学校PTA
　いわき市立錦小学校PTA
◇個人
　齋　藤　友　則（令和２年度～令和３年度 副会長）
　齋　藤　敏　浩（令和２年度～令和３年度 副会長）
　宗　像　真　人（令和２年度～令和３年度 副会長）

3.東北ブロックPTA協議会会長表彰
◇団体
　二本松市立岳下小学校PTA
　いわき市立平第二中学校父母と先生の会

白河大会全体会の表彰式の様子（2022.10.2）

◇個人
　佐　藤　秀　美（令和２年度～令和３年度 副会長）
　佐　藤　浩　哉（令和２年度～令和３年度 副会長）
　松　谷　恵理子（平成30年度～令和３年度 母親代表理事）
　大須賀　祐　香（令和元年度～令和３年度 母親代表理事）
　大　平　　泉（令和２年度～令和３年度 母親代表理事）
　土　井　洋　美（令和２年度～令和３年度 母親代表理事）
　田　代　悦　子（令和２年度～令和３年度 母親代表理事）
　坂　下　直　子（令和３年度　母親代表理事）
　唯　木　常　晴（令和２年度～令和３年度 研修部長）
　神　尾　孝　弘（令和３年度　調査広報部長）

4.日本PTA第42回全国小・中学校PTA広報紙コンクール
◇日本ＰＴＡ全国協議会会長賞
　福島市立飯野中学校父母と教師の会「KOMOREBI」
◇教育家庭新聞社社長賞
　福島市立平野中学校PTA「SAZANKA」

5.優良PTA文部科学大臣表彰
　新地町立駒ケ嶺小学校父母と教師の会
　白河市立東北中学校PTA

6.優良PTA福島県教育委員会表彰
　郡山市立安積中学校父母と教師の会
　須賀川市立西袋第一小学校教育活動後援会

安全互助会のお知らせ

令和４年度より４つのコースを３つのコースに再編しました。県下小中学校全体の99％の学校が本会に加入がありました。

令和４年４月１日から施行されました福島県自転車条例の「自転車損害賠償責任保険等への加入義務」に適応した補償内容となっております。Ⅰコース、Ⅱコースでは自転車事故等の賠償事故補償額の高額化に備えるべく保険金額を１億円としました。Ⅱコースへの加入率が98％となっていますが、Ⅰコースの加入率は１％であります。Ⅰコースは学童・PTA会員の入院、通院の補償をより充実させたコース内容になっております。コース加入の検討を宜しくお願い致します。

次年度の加入案内文書は１月上旬に各学校へ配布いたします。

（活動支援補償制度の案内文書も同封しますのでご高欄ください）

編集後記

令和４年度も年の瀬を迎えようとしています。常日頃より会員の皆さまには、本会に対し温かいご支援・ご協力をいただいておりますこと改めて感謝申し上げます。令和５年も、子どもたちの健やかな成長のために、みんなで力を合わせていきましょう。

福島県PTA安全互助会補償制度
（学童・PTA会員傷害・賠償補償制度）

ふくしまっ子こども総合補償制度
（小・中学生総合補償制度）

学童のケガや「熱中症」「食中毒」による入院・通院も補償対象となります。

O-157などの特定感染症や新型コロナウイルス感染症を発症し入院した場合や、自転車による高額な賠償事故にも対応しています。

詳しくは、福島県PTA連合会HPをご覧ください。

共栄火災海上保険株式会社
東北支店福島支社　〒960-0231 福島県福島市飯坂町平野字三枚長1-1
TEL　(024)554-3006　　22-1823